

CASBEE[®] 新築[簡易版] 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	北河原市営住宅D棟	階数	地上5F
建設地	京都市南区東九条東岩本町33番地の41ほか	構造	RC造
用途地域	第2種住居地域、準防火地域	平均居住人員	202 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所、集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2011年7月 予定	評価の実施日	2008年2月19日
敷地面積	4,903 m ²	作成者	榎谷設計 中元綱一
建築面積	2,063 m ²	確認日	2008年2月19日
延床面積	4,798 m ²	確認者	榎谷設計 中元綱一



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 **Q1のスコア= 2.9**

Q のスコア= 3.3

Q2 サービス性能 **Q2のスコア= 2.7**

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 4.4

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー **LR1のスコア= 3.2**

LR のスコア= 3.4

LR2 資源・マテリアル **LR2のスコア= 3.5**

LR3のスコア= 3.7

LR3 敷地外環境

3 設計上の配慮事項		
総合	<ul style="list-style-type: none"> 市営住宅と地域施設の複合施設として、居住者と地域住民の良好なコミュニティの形成に貢献し、隣接する北岩本児童公園との連続性や周辺環境、景観への配慮により、京都の市営住宅の規範となる施設を目指している。 	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<ul style="list-style-type: none"> 京都市営住宅の仕様に基づき、経済性に配慮した計画としている。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の利用に配慮した施設の計画、風土色を活かしたあたたかみのある施設として計画を行っている。又、市営住宅の基本仕様に基づく将来を見据えた設備計画を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 隣接する児童公園との調和をはじめ、地域の自然環境に配慮した計画とし、建物外観において町並みの保全に貢献する計画を行っている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<ul style="list-style-type: none"> 地域施設における高効率な設備機器の採用、自然採光・自然換気を十分に行える施設を計画し、市営住宅・地域施設としての明確な運用方針に基づいて運用を行うものとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 比較的広範囲な外構において、再生材を含む材料の採用を行う。節水はもとより、雨水の再利用を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のコミュニティ形成に重要となる北側認定道路の歩行者動線に配慮した駐車場および歩道の計画を行っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency (建築物総合環境性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される